

《平成 15 年まき網漁業の動向》

今月は平成 15 年のまき網漁業の状況について、中型まき網を中心に振り返ります。

1. 漁労体数と漁獲量の推移

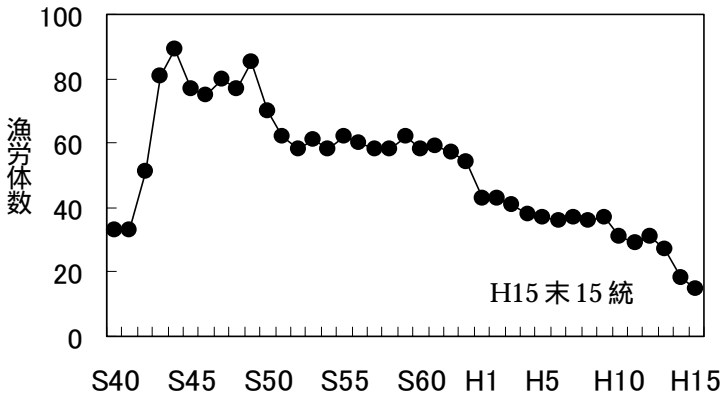


図1 島根県の中型まき網漁労体数の推移

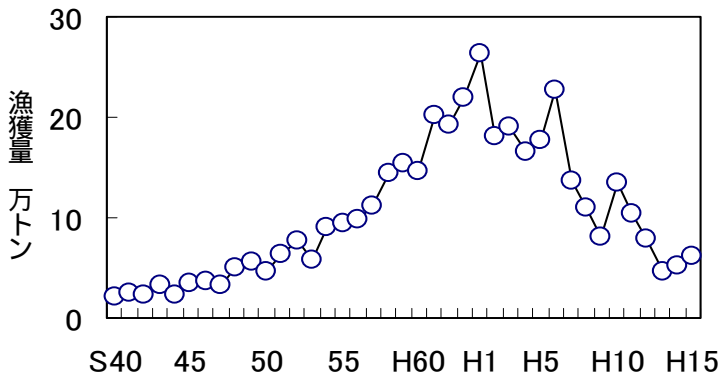


図2 島根県の中型まきによる漁獲量の推移

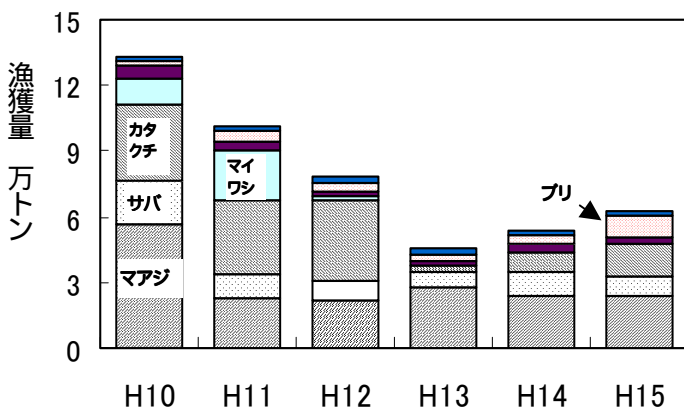


図3 島根県の中型まき網の魚種別漁獲量

漁労体さらに減少！

図1に県内の中型まき網漁労体数の推移を示しましたが、昭和44年の96ヶ統をピークに減少傾向にあります。特にここ数年、出雲地区を中心として減船、廃業が相次ぎ、平成15年12月末には、15ヶ統となっています。

総漁獲量の変動

図2に漁獲量の推移を示します。昭和50年代以降マイワシ資源の増加に伴い、漁獲量も増加し、平成元年には26万トンとピークを迎えましたが、その後急激に減少しています。平成6年にはマイワシの豊漁、平成10年にはマアジの豊漁などにより一時的に増加するものの、翌年には再び減少に転じており、大きな流れで見れば平成元年以降減少傾向にあります。ただし、平成14年、15年と2年連続で若干増加傾向となりました。平成15年の総漁獲量は約6万2千トン、総水揚金額は約45億円でした。漁獲量は平年(過去5カ年平均)の76%、前年の115%と前年をやや上回ったものの平年を大きく下回りました。水揚金額は平年の72%、前年の91%となっています。

魚種別漁獲量の変動

図3に最近の魚種別漁獲量の変動を示します。平成13年までは毎年何らかの魚種が激減するパターンで、直線的に漁獲量が減少していましたが、平成14年、15年はやや持ち直しています。漁獲の主体であるマアジは平成11年以降2万5千トン前後、サバ類は1万トン前後で安定していますが、平成14年以降カタクチイワシがやや増加傾向であること、平成15年はブリの漁獲量が多かったことなどから2年連続の増加となりました。

アジやサバ類の当歳魚は比較的まとまった魚があるものの、1歳魚以上の大型魚になると極端に漁獲が減少するという傾向にあります。当歳魚が多いのに1歳以上魚が増えないということは、資源の状態としては非常に悪いと言えます。

2.平成 15 年の漁獲状況

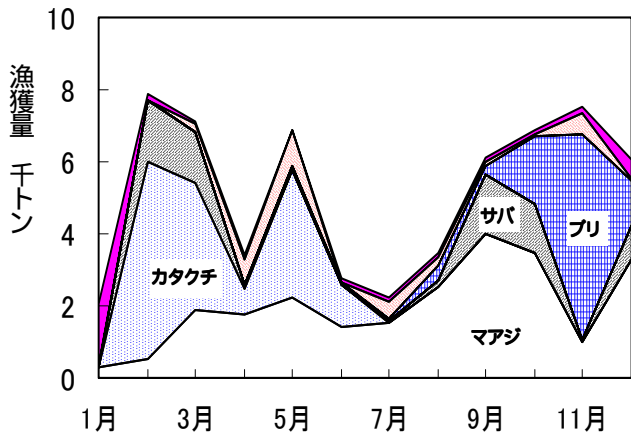


図4 平成15年の月別魚種別漁獲量

図4に平成15年の魚種別漁獲量の月変化を示します。近年は2~3月のカタクチイワシと9~11月のマアジ、サバ類と、春と秋の2つのピークが見られるパターンなのですが、ここ2年は春のカタクチイワシが不振でした。しかし、平成15年は2月、3月、5月にカタクチイワシがまとめて漁獲されたこと、11月に県東部を主漁場としてプリ(0歳魚および1歳魚)がまとめて漁獲されたことから、漁獲のパターンとしては平年と同じ形となりました。ただし、11月のプリの占める割合が76%と非常に高く、秋漁の魚種割合パターンとしては特異なケースとなりました。

3.地区別漁獲状況

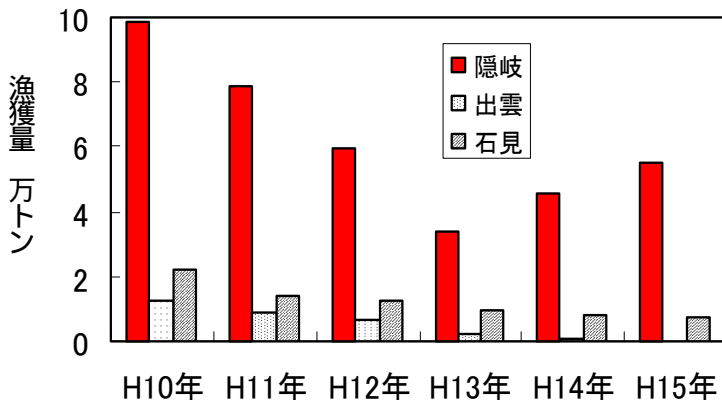


図5 島根県の中型まき網の所属別漁獲量

隠岐地区やや増加！石見地区減少！

県内を隠岐地区、出雲地区、石見地区の3つに区分して、平成10年以降の漁獲状況を図5に示しました。隠岐地区は西郷・浦郷、出雲地区は美保関・恵曇、石見地区は五十猛・浜田・益田を含んでいます。隠岐地区は、県全体の漁獲動向と同じように平成13年までは減少し、平成14年以降はやや増加するという傾向を示しています。これは隠岐地区の所属漁船が比較的県下全域を漁場として利用していることが原因です。石見地区では地先漁場を中心にここ数年マアジ主体に漁を行っていますが、低位漸

減傾向にあります。このまま、マアジやマサバの来遊量が増えなければ、さらに漁獲量が減少する危険があります。出雲地区は減船、廃業が続き、平成15年には所属漁船はなくなりました。

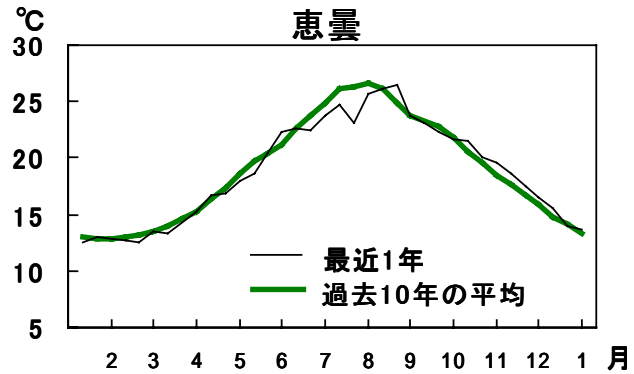
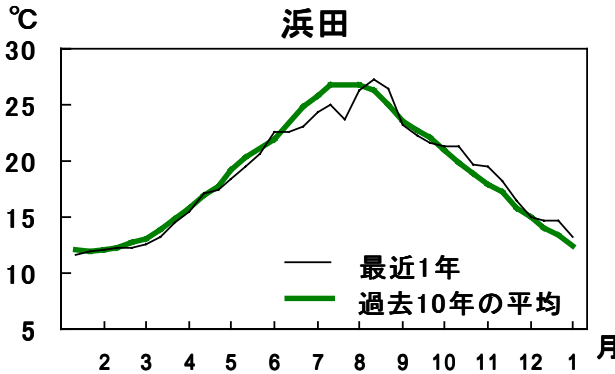
4.今後の漁況

主要魚種の今後の動向について予測をしてみます。マアジは、昨年6月に試験場が実施したマアジ当歳魚の分布調査では、平成13年の発生量にはおおよばなかったものの、近年では高い発生水準にあると判断されました。しかし、近年の島根県沖でのマアジ漁況は、夏季の当歳魚の来遊量と秋以降の漁況の間にあまり関連性が見られない傾向にあります。このことから、今後は1歳魚中心に漁があるものと思われそうですが、島根県沖に活発な漁場が形成されるかどうかは予測が難しいところです。カタクチイワシは、昨年、一昨年と増加傾向にあることから、今後の漁に期待しているところです。マサバは、昨年秋の時点では当歳魚の資源量は平成14年よりも多いと予測していましたが、秋以降の漁は伸び悩んでいます。今後、3~4月にかけて小型主体に漁があると思いますが、量的には平年並み程度にとどまりそうです。その他ウルメイワシなどは資源水準が低く、まとまった漁獲は見込めそうにありません。

《 1月の海況 》

1月	月平均	平年差	評価
浜田	14.2	+1.0	やや高め
恵曇	14.5	+0.4	平年並み

1月の月平均水温は12月に比べ浜田で2.4、恵曇では3.1 下降しました。浜田は「やや高め」、恵曇は「平年並み」となり、いずれも平年を上回っていました。



島根・鳥取県の各水産試験場が実施した海洋観測結果(1/28~1/30)によると、各層の水温は、表層(0m)が10.8~14.7(平年差は-1.3~+1.7)、中層(50m)が10.3~14.3(平年差は-0.7~+1.6)、底層(100m)が4.4~14.3(平年差は-4.7~+3.8)となっていました。沿岸域では各層とも、水温が低かった昨年同月を1~2 上回っていました。表層から中層までは、ほぼ同じ水温分布を示し、鳥取県沿岸海域では平年より高めとなっていました。底層では、昨年12月には見られなかった冷水域の張り出しが隠岐諸島北西約65マイルに見られ、冷水域中心付近では平年より低めとなりました。逆に島根県大田市~浜田市の沖合海域では、13 前後の水塊に覆われ平年より高めとなりました。

山陰沿岸海域の水温は、表層では「やや低め~はなはだ高め」、中層では「やや低め~やや高め」、底層では「かなり低め~かなり高め」となっています。

《 1月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ、ソウダガツオ類、サバ類主体に76.5トン、総水揚金額は1,500万円でした。1 統当りの漁獲量は25.5トンで、平年(過去5 年平均)の8%、前年の14%と極めて低調でした。水揚金額は500万円、平年の38%、前年の42%でした。西郷では、マアジ、サバ類主体に総漁獲量2,406トン、総水揚金額は1億4,473万円でした。1 統当りの漁獲量は481トンで、平年の136%、前年の432%となりました。水揚金額は2,895万円、平年の96%、前年の158%となりました。浦郷ではマアジ、サバ類、ウルメイワシ主体で、総漁獲量1,403トン、総水揚金額は7,976万円でした。1 統当りの漁獲量は351トンで、平年の272%、前年の547%となりました。水揚金額は1,994万円、平年の198%、前年の496%となりました。隠岐地区ではマアジが好調となっています。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカ、ケンサキイカを中心に46トンで、平年(過去5 年平均)の13%、前年の10%となりました。ケンサキイカは1月としては比較的好漁で、平年の5.5倍の水揚となりましたが、この時期主体となるべきスルメイカは、平年の13%と不漁となりました。日本海でのスルメイカ資源が比較的少なかったこと、さらに、秋~冬にかけての南下経路が韓国沿岸域に形成されたことなどにより、秋冬の島根県沿岸域でのスルメイカ漁は不振となっています。浜田に水揚げされたスルメイカは20入り主体、ケンサキイカは2段半~3段が主体となっています。

【沖合底びき網漁業】

浜田ではマアジ、イボダイ、キダイ、恵曇ではアカガレイ主体の水揚げとなっています。1 統当たり量・金額を見ると、浜田では漁獲量は前年を5%下回りましたが、金額は4%上回っています。一方、恵曇では漁獲量は27%、

金額は19%前年を下回りました。浜田ではヤナギムシガレイ、キダイ、アンコウがまとまって漁獲され、平年の7~2.3倍の水揚げがありました。この時期主体となるソウハチは低調に推移し、平年の30%の水揚げに留まっています。恵曇ではアンコウ、キダイが好調に推移し、平年の3~2.3倍の水揚げがありました。また、盛漁期を迎えたアカガレイは好調に推移し、平年の1.5倍の水揚げがありました。

【小型底びき網漁業】

和江・大田市両漁協では、出漁日数が前年に比べ2割増加したため、量・金額は前年を10~41%上回りました。また1航海当たりの漁獲量は、和江では前年を14%下回りましたが、大田市では6%上回りました。金額は両漁協とも前年を4~16%上回りました。和江漁協ではソウハチ、アンコウ、ニギス、ヒレグロが、大田市漁協ではニギス、ソウハチがまとまって漁獲されています。一方、前年春にかけて好調に推移したハタハタが低調であり、前年の1~2%の漁獲に留まっています。

【定置網漁業】

県東部では漁獲量・水揚金額ともに前年並みで、前年を上回りました。県西部では漁を切り上げている定置もあり低調な漁模様となっています。隠岐では漁獲量・水揚金額ともに前年および前年を上回りました。県東部ではスルメイカ、サワラ類が主体で前年の約4倍の漁獲量となっています。その他ではブリ、カタクチイワシ、マアジなどが漁獲されています。県西部ではケンサキイカ、スズキ、カワハギ類などが漁獲されています。隠岐ではスルメイカが主体で、前年の約10倍の漁獲量となっています。その他ではマアジ、ヤリイカ、カワハギ類などが漁獲されています。

【釣・縄】

県東部では漁獲量・水揚金額ともに前年および前年を下回りましたが、県西部と隠岐では漁獲量・水揚金額ともに前年および前年を上回りました。県東部ではヤリイカを主体にスルメイカ、ケンサキイカなどが漁獲されています。県西部ではメダイを主体にブリ、ヒラマサ、アマダイなどが漁獲されています。隠岐でもメダイが主体で、その他ではスルメイカなどが漁獲されています。

漁獲統計

平成16年1月1日～31日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	14	マアジ・ソウダガツオ・サバ類	5.5ト	76.5ト
	西郷	-	マアジ・サバ類	-ト	2,406ト
	浦郷	36	マアジ・サバ類・ウルメイワシ	351ト	1,403ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	52	スルメイカ・ケンサキイカ	884Kg	46ト
	西郷	-	-	-Kg	-ト
沖底	浜田	32	マアジ・イボダイ・キダイ	10.7ト	343ト
	恵曇	17	アカガレイ	4.5ト	76ト
小底	大田市	212	ソウハチ・ニギス	521Kg	110ト
	和江	323	ソウハチ	573Kg	185ト
定置網	浜田	12	ケンサキイカ・カワハギ類・スズキ	101Kg	1.2ト
	美保関	110	スルメイカ・カタクチイワシ・サワラ類	430Kg	47.4ト
	浦郷	75	スルメイカ・マアジ・カワハギ類	804Kg	60.3ト
釣・縄	浜田	633	メダイ・ブリ・ヒラマサ	39Kg	24.9ト
	五十猛	219	メダイ・カサゴ・メバル類	29Kg	6.2ト

：1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量÷延隻数・統数で算出しており、四捨五入した値です。

：西郷のイカ釣りおよびまき網の統数は漁協合併に伴うシステムの変更のためデータが集計できませんでした。